（別紙様式＝小学校用）

都道府県番号	9
都道府県名	栃木県

【　①☑　　②□　　③□　】
＊重点をおいた観点にチェックすること

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	宇都宮市立陽東小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	2	2	4	１７	２６
児童数	８８	６５	７１	７２	６９	７８	２７	４７０	

Ⅱ　研究の概要

（１）　研究主題

基礎・基本の定着を図り、学力の向上を目指す指導の工夫
―学ぶ喜びを知り、自ら取り組む算数の学習を目指して―

（２）　研究主題設定の趣旨

本校では文部科学省の学力向上フロンティアスクールの指定を受けたことも併せて、算数教育において基礎・基本を確かに身に付けさせ、それを活用したり発展させたりできるようにし、自ら学んだ算数を豊かに広げて、主体的に課題を追究したり解決したりする子どもを育て「生きる力」を育成していきたいと考えた。

本校では、「人間尊重の教育」を基盤に、豊かな心をもち、主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい人間の育成を目指している。このような、子どもたちに求める資質や能力は単に教えるだけで育つものではなく、具体的な日常の探究活動や主体的な学習活動の中で育まれていくものである。そこで、既習事項を基にそれを発展させ学習を進めていくという、内容の系統性が明確な算数の特性を生かし、子どもの自ら学び考えていく力を高めていくことで、本校の教育目標が実現されていくことになると考えられる。

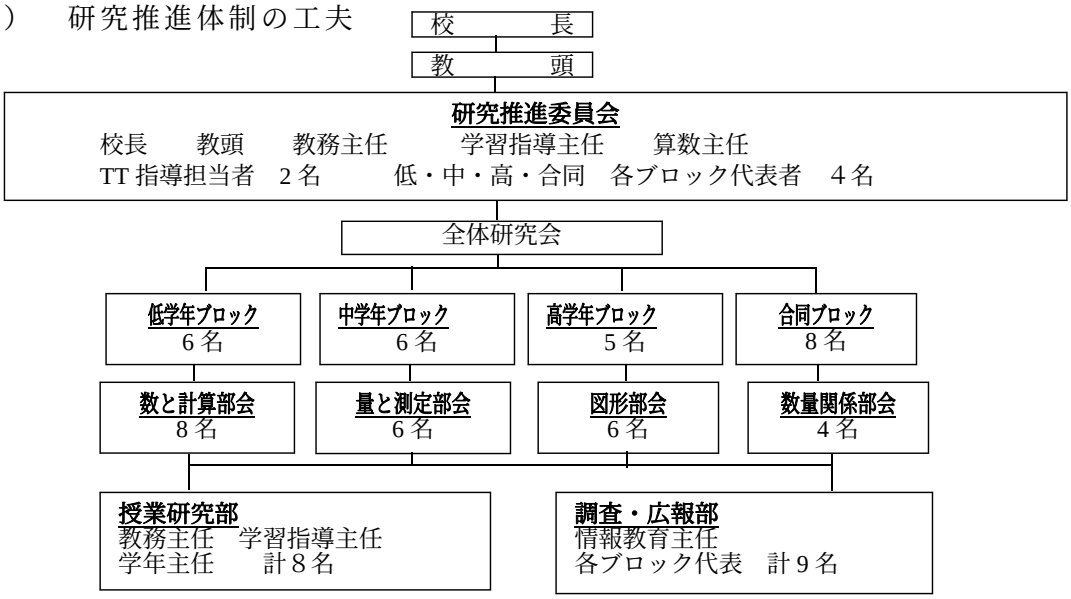
平成１４年度４月に実施した学力テストの結果では、ほとんどの学年で全国平均と比較すると十分でない領域があり、１４年度の課題として指導に当たってきた。これらの結果や学習態度や意欲などについて教師が見た実態等を教師の願いと併せたところ、次のような課題が明らかになった。

・基礎・基本をしっかり身に付けさせたい。
・自ら進んで学習に取り組む子どもを育てたい。
・分かる喜び、学ぶ楽しさを味わわせたい。
・実生活で生きる確かな学力を育てたい。

上記にあげた本校の課題を解決するためには、学習指導要領を基礎・基本とした確かな学力を身に付けさせるとともに、学ぶことのよさを知り自ら課題を解決していこうとする主体的な態度を育て、学力の向上を目指していくことが重要になってくる。

Ⅲ　研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

（１）　研究推進体制の工夫



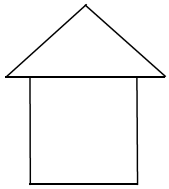
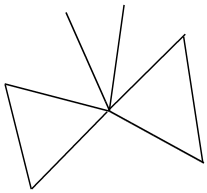
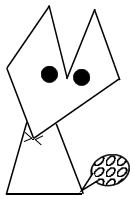
（２）　研究の実際

①　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発

ア　低学年の例　第２学年　単元名「長さ」　＜平成１５年　６月実施＞

学習活動：線絵の中から物さしを使って長さの違う線を見つける活動

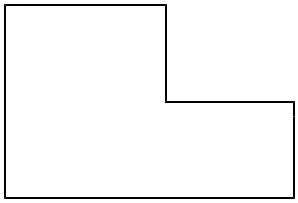
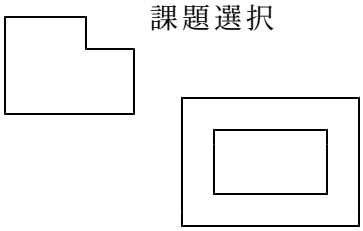
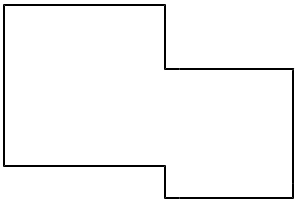
線絵を活用し興味・関心を高めながら、難易度をつけ個人差に対応する課題

補充　⇒	基礎・基本定着　⇒	発展
		

イ　中学年の例　第４学年　単元名「面積」　＜平成１５年　１１月実施＞

学習活動：長方形、正方形の面積の求め方を生かして複合図形の面積の求め方を考える。

コースごとの実態に合った、解決への意欲を高める課題

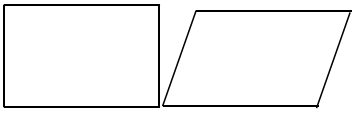
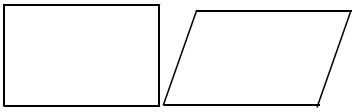
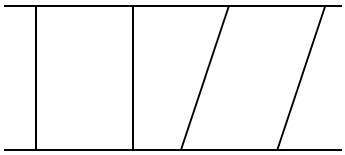
ゆっくりコース	じっくりコース	どんどんコース
	課題選択 	

イ　高学年の例　第５学年　単元名「平行四辺形や三角形の面積」

＜平成１５年　１１月実施＞

学習活動：ゆっくりコース・じっくりコース　自分なりの方法で平行四辺形の面積の求め方を説明する。

どんどんコース　高さが外にある平行四辺形でも面積を求める公式が成り立つことを説明する。

ゆっくりコース	じっくりコース	どんどんコース
長方形(7cm × 5cm)を傾けました。面積は変わったでしょうか。それとも同じでしょうか。 	長方形を傾けました。面積はどちらがどれだけ大きいでしょうか。それとも同じでしょうか。 	面積を比べましょう。 

②個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

ア　個に応じるための習熟度別指導の効果的な活用方法

低　学　年	中　学　年	高　学　年
TT による指導が中心 TTによる指導	単元前半は TT による指導	導入は TT 習熟度別指導
クラス内 習熟度別学習	主に単元の終末で２クラスを３コースに分け、習熟度別学習を実施	単元に関するレディネステストを実施し、コースについてのガイダンス後に、２クラスを３コースに分け、習熟度別学習を実施

＜習熟度別学習コース名称と学習スタイル＞

ゆっくりコース……基礎・基本の定着を重視。

じっくりコース……基礎・基本を生かし考える力を伸ばす。

どんどんコース……基礎・基本を発展させ新たな考えを積み上げる。

・全学年で習熟度別指導を取り入れた年間計画を作成し、活用する。
・計画的に指導ができるように、担任、TT 教諭との連携を密にする。
・実施後に効果的だった指導法や､反省点について記録を蓄積し今後に生かす。

イ　学ぶ喜びを味わわせる習熟度別指導の効果的な実施方法の研究
・コース選択のための適切な支援をする。
・少人数での指導により、一人一人の考えや活動のよさを認める機会を多く設け、学ぶ意欲を高める。
・各コースで、互いの考えを検証しあう情報交換の場の設定をする。

ウ　個に応じるための発展的な学習及び補充的な学習の推進
・発展的な学習及び補充的な学習のための教材開発を進める。
・時間と指導者を確保し､発展的な学習および補充的な学習を計画的に進める。
・放課後の時間を利用した「フロンティアタイム」を設け、発展的な学習や補充的な学習の指導時間を確保する。

③　児童生徒の学力の評価を生かした指導の実際

ア　定着度診断テストの実施
目　　的……当該単元の基礎・基本的内容の定着度を把握するため
実施時期……単元の学習終了時
実施内容……指導内容の一覧表を校内でまとめ、これに基づく当該単元で身に付けさせたい基礎・基本について把握する。
判定基準　Ａ－９０点以上　Ｂ－７０点以上　Ｃ－６９点以下
※　診断テストの結果、A・B基準通過率から定着度を判断し指導に生かす。８０％の通過率で定着したと判断する。８０％に満たない場合、正答率の低い問題があった場合は学び直しの時間を設定する。

イ　教研式ＣＲＴ学力テストの実施
ウ　学研式標準学力検査の実施
エ　自己評価の実施
オ　各種アンケートの実施

（３）　研究の成果と課題

①　研究の成果

＜基礎・基本の定着について＞
・基礎・基本を明確に位置付けた指導計画が作成されそれに基づいた指導が展開された。
・問題解決学習過程や学び直しの時間の設定により基礎・基本の定着が図られた。
・全単元の定着度診断テストが作成され基礎・基本の定着度の評価が一般化された。
・基礎・基本の定着度の評価を生かした指導改善が図られた。

＜指導体制の工夫による学力の向上について ＞
・習熟度別指導の年間計画が作成され計画に基づいた指導が展開された。
・習熟度別指導について効果的な実施方法が明らかにされた。
・発展的な学習、補充的な学習に対応するための教材が開発された。

＜データから検証される学力の向上について＞

〇ペーパーテストの結果から
１学期に実施した学力テストの結果では、全国平均と比較すると十分ではない領域があった。各学年とも、研究仮説に基づき、十分でなかった領域の指導に力を入れた結果、全国平均と同レベル、あるいはそれ以上の結果を出し、学力が向上していることが明らかになった。特に、５年生(現６年生)においては、１学期に全国平均より５点以上劣っていた量と測定の領域が、３学期には全国平均を上回る結果となり、基礎・基本に重点をおいた指導の効果が上がった。

〇意識調査の結果から
コース別学習に対して多数の児童が好感を持っているが、充実感・成就感などの学ぶ楽しさを味わっている児童は60数%である。基礎・基本の充実には、粘り強く努力を積み重ねることの心地よさや、教科の本質にそって思考することの喜びを味わわせることが大切であり、そのような体験ができるようコースごとにさらに指導の工夫を図っていかなければならない。学ぶ楽しさを味わっている児童80%を目指したい。

②　今後の課題
・基礎・基本の定着度の評価を生かした授業改善
・習熟度別指導の効果の妥当性の検証
・開発した発展的な学習及び補充的な学習のための教材の学力向上における効果の検証

・学ぶ楽しさを味わえる指導方法の研究
・研究成果の他校への普及

（４）　研究成果の普及の方策

①　研究会の開催実績及び開催予定

開催実績

平成15年6月24日　宇都宮市内小学校対象公開授業及び研究会(他校参観者約60名)
２年生　TTによる授業　「長さ」
６年生　習熟度コース別授業「体積」
フロンティアスクールの研究について概要を発表

平成15年11月20日　授業研究会（他校参観者10名）
４年生　習熟度別３コース　「面積」
５年生　習熟度別３コース　「平行四辺形や三角形の面積」

平成16年1月14日　授業研究会（他校参観者５名）
１年生　TTによる授業　「おおきなかず」
３年生　習熟度別３コース　「かけ算のひっ算（２）」

開催予定

平成16年11月30日　公開研究発表会　県内小学校対象

②　研究成果普及のための HP 作成及びパンフレット等作成

HP　アドレス　http://www.ueis.ed.jp/school/yoto/

パンフレット作成　公開研究発表会用研究紀要作成予定

（５）　その他（その他特色ある取組等がある場合に記述）

※フロンティアタイムの実施

実施時間　○毎週水曜日放課後４５分間

参加児童　○希望者

指導者　○全職員が交代で指導
○補充的な学習に取り組む子どもに対しては、個に応じた指導が可能になるように、５～６名に対して１名の指導者で対応
○発展的な学習に取り組む子どもは１０名～２０名に対して１名の指導者が対応

指導場所　○学年ごとに補充的な学習の教室と、発展的な学習の教室を分けて指導

教　　材　○補充的な学習に取り組む子どもは、診断テストを教材として活用
○発展的な学習に取り組む子どもは担任がその子どもに合わせた教材　（主にプリント）を準備

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　☑１４年度からの継続校

【学校規模】　□6 学級以下　□7 ～１２学級
☑３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
□ 一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□ 国語　□ 社会　☑算数　□ 理科
□ 生活　□ 音楽　□ 図画工作　□ 家庭
□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□ 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入)】
算数科における基礎・基本を確実に身に付けさせることと同時に、自ら学んだ算数を豊かに広げて、主体的に課題を追究したり解決したりする子どもを育てようと、全職員が一丸となって教材の開発や習熟度別学習等に熱心に取り組み、児童や保護者から絶賛を受けている。